

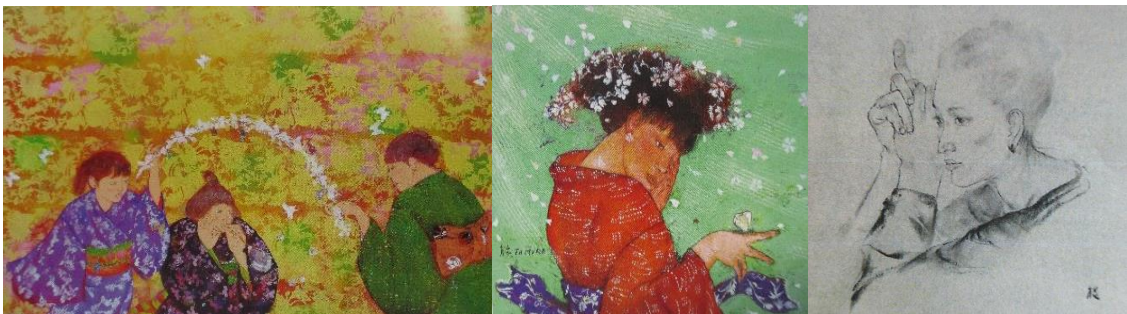
田村能里子 Tamura Noriko 展 — 風のまほろば —

そごう横浜店 6階 2019.09.10～16 西武池袋本店 6階 10.23～29

「田村能里子」(1944～)は、愛知県生まれで武蔵野美術大学油彩画卒業後、文化芸術家在外研修員として中国に留学し、各地で個展を開催する傍ら「壁画」を多数制作している。画伯は、中山競馬場、ホテル椿山荘東京、横浜コンサートホール、客船初代「飛鳥」の船内の大壁画などを作成したことで名高く、これまでに各地で多数の「個展」や「グループ展」を開催している。

2019年春には、東京・日本橋高島屋・新館ショッピングセンターに自身63作品となる《オアシスの丘に風を聴く》を披露するなど、女性洋画家として人気・実力ともに抜きんできた活動をしている。そして、「壁画」制作の合間には、インド・タイ・中国などアジア各地への旅を繰り返し、大地にしっかりと足を踏みしめて「アジアの人のかたち」をテーマにして描き続けている。

本展は、新たに描き上げた大作と2017年から2年間にわたって雑誌「月刊美術」誌に、描き連載された「風のまほろばシリーズ新作原画」から油彩、デッサンなどの120号の大作から3号の小品「26点」の作品が展示されている。



《春よこい》 120号変形 左

華やかな装飾美のなかで少女たちが遊ぶ大作は、日赤医療センター（東京・広尾）ロビーに展示されている。

《遅すぎた自画像》 6号変形 中

花風吹の中、指先に止まった蝶を見つめる倦怠な女性が魅力的である。

《マダム・アリシャ (ある貴婦人像)》 44.7 x 49cm 右

モノトーンのデッサンで、生命の本質と美を捉えたもの。

他に《春の囀 (さえずり)》6号や《赤いときめき》8号などの華やかな色彩と軽やかな息吹に包まれた唯一無二の作品が数多く展示されているため、美術ファンは見逃せない展覧会の開催である。